

Hot Rod Option+Ollie

http://www.hoo.co.jp

HOO

エイチ・オー・オー

Car with Fashion Magazine

夏休み♥
東京お台場
enjoyガイド



定価480円

ドリフト 天国9月号臨時増刊
2000年9月1日発行

2000
9
September

★Webサイト連携企画★

コレクターズ・アイテム誌上オークション

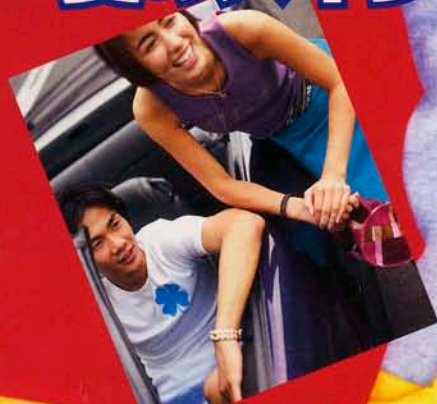
スパイ映画 GOODS

行ってみよう!
オーストラリア

エクストリームStreetSport

2000夏Girls & Boys

カジュアルファッション 夏のスキンケア



夏本番!!

フェアレディZミーティングinラスベガス
We are グレイZ!!



おどるクルマたち



スタイルサンプル50

クルマだってファッションのワンアイテム!

連発

エンジン系の人たちからいわせれば、ヨタハチのカスタムなんてもってのほかなんだろうけど、Hooはそんなカスタム大歓迎！クルマなんて自分の好きなようにイジって楽しんだモン勝ち。NATSのスカイライン・ピックアップだって、自由な発想でつくられたクルマって感じがしてイイぞ。それから、編集部での長期レポートはスカイラインとカマロに加えて、今月から由良拓也さんを中心に、日産セレナのカスタムがスタートするのだ！お見逃しなく。



TOYOTA SPORTS800



NATS R32 PICK-UP

CUSTOM STYLE



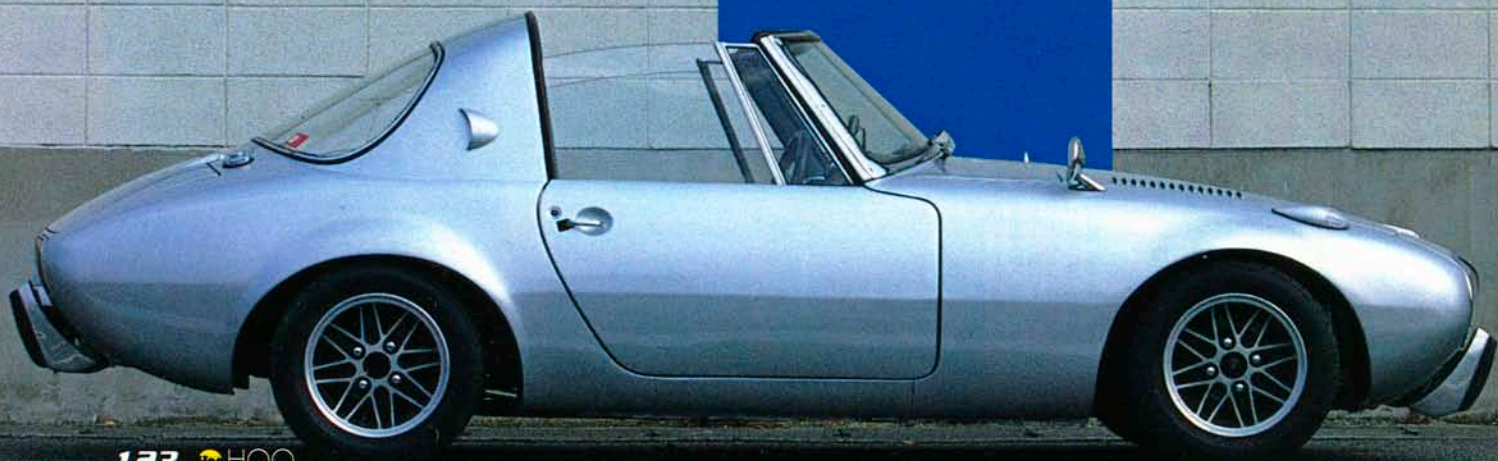
SKYLINE RS TURBO by ヒロシマ



CAMARO RS by Hoo編集部



SERENA by Hoo編集部





フルレストアするだけじゃつまらナイ 小ワザ満載のかわいいハチャツ

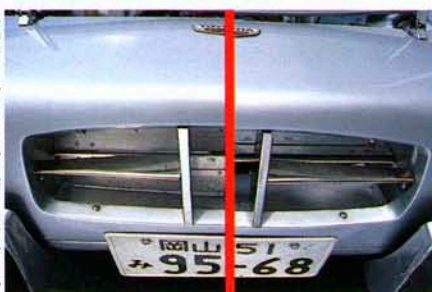
2000GTと並ぶトヨタの名車といったらヨタハチだ。今や希少なクルマだから「できるだけオリジナル状態を保って、乗るといえばイベントのときくらい」というオーナーの気持ちもわからないでもないけど、それじゃホントもったいないよね。クルマなんて乗ってナンボなんだから。ココで紹介するヨタハチは、フルレストア+カスタム+バリバリの通働仕様！っていうシアワセな1台なのだ。

**雰囲気を大事にしつつ
でもしつかりカスタム**

'65年に登場し、4年半の間にわずか3100台ちょっとしか生産されなかったスポーツカー「トヨタ・スポーツ800」。通称ヨタハチ。当時、トヨタの小型車としてラインナップされていた「パブリカ」というクルマをベースに、取り外しできるルーフを持った空力ボディをかぶせた……というのが、ヨタハチのそもそもの生い立ちだ。いずれにしても、希少で貴重なクルマだから、いまだに所有している人は、できるだけノーマルの状態を維持しながら、週末のドライブだとか旧車のイベントだとかにチヨロツと乗って……それが相場になっている。まあ、これはヨタハチだけじゃなくて、日本で古いクルマ（とくに「名車」なんていわれてチャホヤされるヤツね）を持つてる人たち全般にいえるんだけど。

な〜んて、ずいぶん前置きが長くなっちゃったけど、ココで紹介するヨタハチは、クルマのことをよくわかっているオーナーのおかげで、ツボを押さえたカスタムが施され、毎日チヨコマカと走り回っている、いわゆる一般的な日本の旧車観とは正反対にあるシアワセな1台なのだ。

まず、エンジン。ポアアップにハイコンプ・ピストン&ハイカムを組んで、パフォーマンスとフィーリングをアップ。さらに、純正だとキャブは2基なんだけど、若干遅れて開くキャブをもう1基追加（同時に開くと、ガスが濃す



初代パブリカと同じ空冷水平対向2気筒の2U型エンジン。820ccまでポアアップされ、ハイコンプ・ピストンとハイカムが組まれている。注目目はキャブレターで、なんとダンドラのシングルバレルを3連装！メッキされたエアクリナーがイカしてる。

ぎて息つきを起すからして、より力強い中間加速を得られるようにモディファイされている。

お次はインテリア。ステアリングやメーター交換はお約束で、ブル式のスイッチ類のノブは、オーナー自作のアルミ製。内装の張り替えには、洋服の生地を使ってるぞうだ。極めつけは助手席の正面にあるオーディオで、バツと見はボタンを押し込むと針がピツと瞬間移動する、昔ながらのAMラジオなんだけど、それ自体が開閉式のパネルになっていて、実は奥にトドキのカセットチューナーが隠れていたりするのだ！こりゃ拍手モノ。

で、最後にエクステリア。165サイズのタイヤを取めるため、フェンダーは前後ともタタキ出し。コレがホント、自然にまともっていてまったく違和感がない。でもって、ホイールにコスミックを選ぶあたりが、なんともシブイじゃないですか。

あ、いい忘れてたけどこのヨタハチ、塗装剥離&ネジ一本まで完全バラシ&各部のオーバーホールといったフルレストアをした上でのカスタムだからね。どこにも文句のつけようがない仕上げりなのも当然なのだ。

クルマ好きなら思わずササる「アイデア賞」的なカスタム



キレイに叩き出されたリアフェンダーが、かわいらしいボディに迫力を与える。ホイールとタイヤは、懐かしのコスミック(5Jx12)にBSのKグリッド(165/60R12)という組み合わせだ。



レブカウンターを社外品に交換、ダッシュパネル中央に3つ並んだスイッチのノブは、これまた富松さんがアルミを削り出してつくったモノ。で、いちばん感心したのがオーディオで、当時の純正AMラジオしか見えないけど、じつは左のスイッチノブを抜くとパネルが開いて(AMラジオはダメーなのだ!)カセットチューナーが現われるって寸法。旧車の雰囲気壊したくないというオーナーのこだわりだ。



OS技研でパーツの設計からメカニックまでこなす富松さん。本誌3月号で紹介したTC16搭載の510ブルを組み上げたのも彼だ。このヨタハチの他に、エスハチも所有する国産旧車フリーク。



開口部は狭いけど、奥行きがあるから見た目以上に実用的なトランク。ご覧のとおり取り外したルーフモスツポリと収まる。CDチェンジャーを添着してるのにも注目。

TOYOTA SPORTS800